

## 合格体験記（A O方式入学者選抜）

第Ⅰ項 表象文化学部 英語英文学科

出身高校名 福山暁の星女子高等学校

- （1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私自身カトリック校の出身であり、伝統的なキリスト教主義に基づいた「自らのためだけでなく、他者のために学び生きる」という同志社女子大学の教育理念に共感したからです。また、他の大学にはない表象文化学部で学びたいと思いました。英語を重視しながらも、それを人間の表象手段であると捉え、その奥にある人々とのつながりを意識して、将来の夢である客室乗務員になるために学びを深め、可能性を広げられると考え、志望校としました。

- （2）A O方式入学者選抜を受けようと思った理由。

同志社女子大学に入学して勉学に励みたいという強い思いを直接自分の言葉で伝えられるところに魅力を感じました。  
A O方式では、これまで自分が経験したことや積極的に行ったことを素直に伝えることができ、学科試験だけでは分からない自分について知ってもらえると思い受験しました。

- （3）A O方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

校内奉仕活動（募金活動や福祉施設への訪問）や校外ボランティア活動（西日本豪雨で被災した地域での復旧作業の手伝い）、また高校3年間所属し、部長を務めた弓道部での活動を通して得た経験や考えを「人々とのつながりの大切さ」を中心に伝えました。

- （4）出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

4か月をかけ、大学の情報収集をしました。私自身文章を書くのが苦手だったので、複数の先生方に見ていただいて、自分がいいなことが本当に言葉として表現できているか確認しながら推敲を重ねました。クラブのことや奉仕活動のことなど、伝えたいことはたくさんありましたが、テーマを絞り取捨選択をしました。また、同志社女子大学でなければならぬ理由やなぜその学部で学びたいのかを改めて考えながらまとめていきました。

〔面接〕

面接は提出書類の内容をもとに行われるので、すべてコピーを取り、何度も読み直して、自分が伝えたいことをきちんと伝えられるよう練習しました。丸暗記をするよりは、キーワードを押さえながら練習すると良いかもしれません。事前に学校の先生から「面接官の方との会話を楽しむといい」というアドバイスをいただきました。面接中は緊張もしましたが、素直に自分の言葉で会話のキャッチボールをすることを心がけました。

- （5）選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

高校生活の中で、いろいろな経験をしておくことが大事だと思います。たとえば私は、西日本豪雨で被災した地域での復旧作業や炊き出しなどの経験をしました。実際に現地を訪れると、それまで知らなかった世界を肌で感じるすることができます。また、経験が自分にとってどのような意味をもったか自分をどう成長させたのか、自分の言葉で語れるようになっておくことも大事だと思います。A O入試を受験しようとして決めてから実際に受験するまでたくさんの人に支えていただきました。支えてくださる人への感謝を忘れずに受験に臨んでほしいと思います。